

製品名: LSHR ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13459**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	LHCGR LCGR LGR2 LHRHR
別名	Lutropin-choriogonadotropic hormone receptor (LH/CG-R) (Luteinizing hormone receptor) (LHR) (LSH-R)
遺伝子 ID	3973.0
SwissProt ID	P22888
免疫原	ヒト LSHR ポリクローナル由来の合成ペプチド

背景

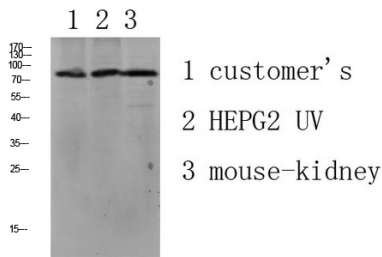
この遺伝子は、黄体形成ホルモンと絨毛性ゴナドトロピンの両方の受容体をコードしています。この受容体は G タンパク質共役受容

体1ファミリーに属し、その活性はアデニル酸シクラーゼを活性化する G タンパク質によって媒介されます。この遺伝子の変異は、家族性男性早熟思春期（テスト中毒症とも呼ばれる）、低ゴナドトロピン性腺機能低下症、早熟性ライディッヒ細胞腺腫、ライディッヒ細胞低形成を伴う男性偽性両性具有症など、男性の二次性徴発達障害を引き起こします。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、代替製品：追加のアイソフォームが存在するようです、疾患：LHCGR の欠陥は、家族性男性早熟思春期（FMPP） [MIM:176410]（テスト中毒症とも呼ばれる）の原因です。FMPP では、受容体は恒常的に活性化されています。疾患：LHCGR の欠陥は、ライディッヒ細胞低形成（LCH） [MIM:152790]の原因です。LCH は、男性偽性両性具有を特徴とする常染色体劣性疾患です。LCH では、精巣が小さく、ライディッヒ細胞が著しく未熟で、血漿テストステロン値が検出限界以下になり、ゴナドトロピン値が上昇します。機能：ルトロピン-絨毛性ゴナドトロピンホルモンの受容体です。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼを活性化する G タンパク質によって媒介されます。オンライン情報：糖タンパク質ホルモン受容体情報システム、類似性：G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。類似性：G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属します。FSH/LSH/TSH サブファミリー。類似性：7 つの LRR (ロイシンリッチ) リピートを含みます。組織特異性：性腺細胞と甲状腺細胞。

研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;

画像データ



各種溶解液のウェスタンブロット分析。抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。